



源流の 森林

△の道路工事を県が始めたところから起きていた

△の道路工事を県が始めたところから起きていた。実は同じような地滑りに国が進めた造林政策でたぐさんの広葉樹が伐

という。工事で川筋の木々を伐採するうちに、細かな砂が多く、もろい。郡上の山に広がっていた広葉樹林が地中深くに根を張り、地盤を支えていた。ところが、戦後

岐阜支社
〒500-8875
岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地
058(265)0191
Fax(262)8706
(販売) (265)0265
(広告) (266)4791
(事業) (265)0267

多治見支局
0572(22)3121
Fax(23)5331

大垣支局
0584(78)2030
Fax(74)6460

高山支局
0577(32)0350
Fax(34)5215

関支局
0575(22)3234
Fax(24)3939

中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052(221)0800
Fax(221)0819
Eメール
center@chunichi.co.jp

県訪問介護協会
設立控え説明会
岐阜
四月に発足予定の業
界団体「岐阜県訪問介
護協会」の事業説明会
が十九日、岐阜市の岐
阜産業会館で開かれ、
訪問介護事業者ら約四
十人が設立の趣旨など
に耳を傾けた。県内の

治水と造林

緑のダム 壊し半世紀

アユのいた大きなふちや石は土砂で埋まり、良好な釣り場の面影はなくなっていた。郡上市大和町を流れる長良川支流の亀尾島川。子どものころからこの川で釣りをしてきた佐藤宗一さん(68)は二年前、久しぶりに訪れた釣り場の変わり果てた姿にがくぜんとした。

下流の田口砂防ダムも土砂でいっぱい。川に魚の気配はなかった。昔は腹がばんばんに膨れ、背中がこぶのように盛り上がった大きなアユが釣れた。「糸を垂らせば、ぼんぼん引っ掛かるほど。いったい、どこにいったのか」

「長良川水系・水を守る会」の亀崎敬介さん(68)によると、異変は一九八三年、上流に建設される治水用の「内ヶ谷ダ



地滑りで崩落した土砂に覆われたダム建設予定地近くの亀尾島川河畔。2005年6月、郡上市大和町で(亀崎敬介さん提供)



採られ、土砂が流出した。当時、林業会社で働いていた郷土史家の山田宏さん(68)は「毎日広葉樹をひたすら切りまくって、パルプに変えとった。見渡す限りの山をきれいにはげ山にしてしまった」。

大雨のたび、亀尾島川から土砂が長良川に流れ

合流点から五キロ上流に田口砂防ダムを設置。はげ山に植樹された建築材用のスギやヒノキの人工林が、かろうじてもうい土壌を支えてきた。

県河川課によると、内ヶ谷ダムは「百年に一度たの洪水に対応するために必要」という。一方、釣

「緑のダム」を壊し、川にコンクリートのダムを造り続けた半世紀。それは、すみかを脅かされ続けたアユの生活史にも重なる。

(中尾吟) 終わり

5▶▶

アユは語る

第二部